

学科 管理栄養	所感
氏名 平井 あかり	TPを作成することにより、現在の自分が行っている教育活動を振り返ることができた。授業改善や指導力向上に取り組み、今後の目標にむけて教育活動を充実させていきたい。

家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。

イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。

ロ 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。

ハ こどもの生活学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、子どもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。

1 教育の責任

私は、家政学部管理栄養士学科の教員として2021年4月に就任し、今年度で4年目となる。2024年度はオムニバス科目を含めて合計13科目担当した。下表に2024年度の主な担当科目を挙げた。私が担当する科目は、主に臨床栄養学の専門分野であり、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて栄養管理計画の作成・実施・評価に関する総合的マネジメントの考え方を身に付ける教育をすることを責任としている。担当科目の内容については、各科目のシラバスにて示している(添付資料1)。

授業以外には就職委員、4年生の指導教員、臨地実習委員、管理栄養士国家試験対策委員、キャリア教育推進委員、愛知県臨地実習連絡協議会、地域連携ボランティア委員会、海外研修旅行、オープンキャンパス模擬授業などを担当した。卒業研究では、病院や施設と連携して栄養評価に関する内容を実施した。

科目名	開講時期	受講者数
在宅栄養管理論	3年後期	64名
栄養評価管理実習	3年後期	64名
臨床栄養学II	3年前期	63名
栄養管理プロセス論	2年前期	76名
臨地実習事前事後演習	3年通年	63名
臨床総合演習	4年前期	63名
他7科目		

2 教育の理念と目的

管理栄養士は、命の基本である食を通じた支援を人々に行う役割を担うことから、豊かな人間性と、その背景にある幅広く深い教養と知識を身に付けることが求められる。健康で豊かな暮らしの実現に寄与できるような広い視野を持ちながら、将来的に広く活躍できる管理栄養士を養成する必要がある。このため、栄養に関する専門性を身に付けるほか、変化していく社会において生涯学び続け、主体的に考える力を身に付けることができるように指導し

ていきたいと考えている。

3 教育方法

- ① 予復習の実施：本学で導入している PCR シート（添付資料 2）を活用している。
- ② 確認テストの実施：座学では、毎授業での管理栄養士国家試験過去問を基にした小テスト（添付資料 3）を実施している。小テストは授業の最後に実施し、授業の内容に関する知識を確認するものである。また、復習として小テストの内容の見直しを促し、次週授業最初に添削したものを返却した後、解説を行っている。
- ③ 授業方法：グループワークを取り入れ、学生の作業活動やグループディスカッションの時間を設定している。自分で調べてきた内容を各々ディスカッションすることで、新たな発見や知識の修得に繋がっている。授業では、PDF 資料の配布（添付資料 4）、Google forms を活用した小テスト（添付資料 3）を行った。授業は、双方向型の授業展開を心掛けている。

4 授業改善の活動

授業評価アンケート（添付資料 5）を活用し、授業改善（添付資料 6）を行っている。授業中には定期的に進行速度などの確認を行っている。また、毎授業最後に実施する小テストにおいて、授業内容への質問・感想・要望を問う質問を設け、次回の授業までに対応するなど柔軟な対応を心掛けている（添付資料 3）。

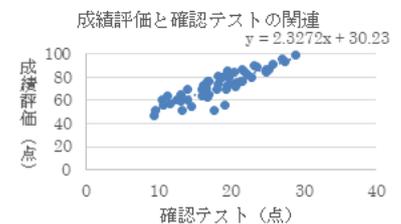
さらに、臨床栄養学会等の学会などに可能な限り参加し、最新の栄養学の理論や知識を修得するように心掛けている。

5 学生の授業評価

2024 年度の評価は添付資料のとおりである（添付資料 5）。いずれの項目も比較的高い評価を得ており、学生は概ね授業運営に納得していることが伺える。この結果を踏まえ、2025 年度の授業ではさらに学生の反応や理解度を確認しながら授業展開をしていきたい。

6 学生の学修成果

2024 年度の成績評価の分布を下表に示した。2023 年度においては、栄養管理プロセス論および在宅栄養管理論の科目で「可 (C)」と不可 (F) が多かったが、スモールステップを積み重ねる工夫を実施した結果、他の科目と同様に概ね標準化目安に準じた分布となった。また、臨床栄養学Ⅱの成績評価と確認テストのを示す右図から、確認テストで良い点を取った学生の方が成績評価も良くなるという正の相関がみられた。このことから、日頃の学修の重要性を引き続き認識させるとともに、スモールステップを積み重ねる学修を促す取り組みを継続したい。



2024 年度成績評価分布 (%)

	秀 (S)	優 (A)	良 (B)	可 (C)	不可 (F)
平準化目安	10	30	35	25	
栄養管理プロセス論	9	31	31	20	8
臨床栄養学Ⅱ	8	32	37	16	6
在宅栄養管理論	8	33	30	16	14
栄養評価管理実習	11	30	37	14	8

7 授業科目に関連した教材開発

授業パワーポイント、PCR シート、小テストを作成し授業を行っている（添付資料 2、3、4）。

8 指導力向上のための取り組み

愛知学泉大学家政学部が主催する FD 研修会に参加し、教育改善の方策のヒントを得ている。また、公開授業を参観して、自分の講義改善の参考としている（添付資料 7）。

9 今後の目標

短期的な目標としては、臨床栄養学・在宅栄養支援に興味を持って学べるように、担当科目の授業改善（主に予習課題、本時の授業、復習課題との関連付け）と新規科目の授業構築を行いたい。

長期的な目標としては、管理栄養士として社会に出たときに、大学で学んだ内容を礎とし、自主的にさらなるステップアップを目指せるような教育をしたい。

10 添付資料

添付資料 1：2024 年度シラバス、添付資料 2：PCR シート、添付資料 3：小テスト、添付資料 4：授業 PDF 資料の配布、添付資料 5：2024 年度授業アンケート、添付資料 6：授業改善、添付資料 7：FD 研修会資料